

あとがき

ホラえもん

タイトルである「路地裏のダンサー」と言うのは実話でして、決して私が爆発したとかロボットと戦つたのではなく仕事で海外へ行つた時の話です。

夜な夜な小さな繁華街をうろついていると、いわゆる地元民が集まるBARがあり、生演奏などが聞こえて酒を飲む店があつたりします。「オニイサン」と声をかけられる怪しい通りを抜けて、少し暗い路地に入つた時に、ドレスを着た子供が、聞こえてくる曲に合わせて腰に手をあててステップを踏んでいたのです。

BARの裏口が開きっぱなしでその店の出番直前なのか、親を待つて いるのか…

ただ、プロフェッショナルの舞台裏を生々しく間近で見た様な驚きと同時に、こんな時間に道路で子供が一人でドレス着て踊つて いる? 強烈な違和感と言うか… カルチャーショックをうけた記憶があります。

トップ画面に描いてある黄色いドレスの「路地裏の少女」は、実際に記憶に残っている後ろ姿をそのまま描き出しています。

そこから広がった3点の絵と、

その絵の為に生れた設定からの小説が「サイバーパンク3001路地裏のダンサー」です。

初めてのこころみで1年以上かかりましたがようやく一つの形として完結できました。初めての小説制作の感想は長かったです。

フルマラソンに挑戦して最初の2Kmでゼイゼイ言いながら（これはマラソンではなく旅に切り替えよう）とコンビニに入つたり、喫茶店で絵を描いたりしながら42.195km。誰もいなくなつたゴールへ両手をあげて飛び込んだ気持ちです。

つまりいい旅でした。

ずっと走っていたら救急車で運ばれながらゴールしたと思います。

さうに

世界設定を与えてくれた HIROSAN 様 絵の作品をお迎えいただき支えてくださったニヤさん様、 Hshikawa 様 X で作品を応援していただいた皆様やシンボラーの方々、そしてこの作品を読んでいただいた貴方様へこの場をお借りしてお礼申し上げます。あと勝手に動き出してストーリーを進めてくれた登場人物たちにも感謝します。コウ良い旅を。